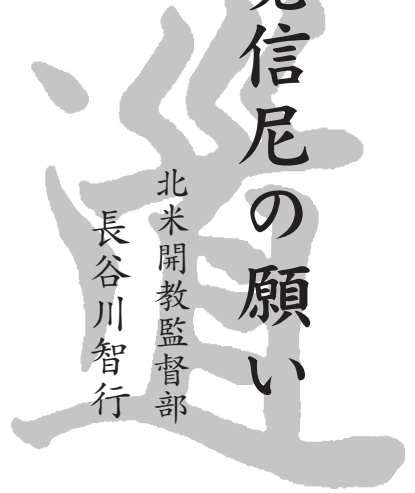


覚信尼の願い

北米開教監督部

長谷川智行



今年に入ってから、私達の教団である真宗大谷派（東本願寺）の歴史を紐解く機会が多くありました。真宗にも数多くの宗派があり、それぞれに歴史がありますが、その中でも真宗大谷派と浄土真宗本願寺派（西本願寺）は元々「本願寺」というお寺として真宗の教えを受け継ぐ一派でした。本願寺の源流まで遡りますと、教団の歴史は七百五十年近くの長きにわたることになります。その間、それぞれの時代のうねりに巻き込まれながらも、今日まで教団は受け継がれてきました。その社会的な形は時代によって変化がありますが、その歴史の底流には

一貫した深い願いがあるように感じられます。私達の本願寺の源流をたずねていきますと、今から約七百五十年前に京都の東山に建てられた小さな廟所に遡ることができます。浄土真宗の教えを顕かにされた親鸞聖人は最晩年、京都の善法院という場所を在所とし、末娘の覚信尼（かくしんに）が身の回りの世話をしていたと考えられています。そして一二六三年一月（弘長二年十一月）に九十歳で聖人は示寂されます。聖人亡き後、その遺骨は京都東山の大本谷という地に葬られました。それから約十年後、覚信尼とその夫である小野宮禪念（おのみやぜ

んねん）が、門弟達の協力を得ながら、自分達の所有する土地に聖人のお墓を移し、「御影（ごえい）」、つまり聖人の在りし日の姿をかたどった像を安置する廟堂を建てました。その地に各地から門弟達やかつて勸化を受けた人々が集い、聖人の恩徳に報謝し、自分自身の聞法の歩みを確かめる場となつていったと伝えられています。さらに数年後、禪念亡き後、覚信尼はその土地を門弟達に寄進したのです。この廟堂が真宗門徒にとつての、聖人の遺徳を偲び、教えを尋ねていく上での象徴的な場所となりました。どのような時代でも、人間にとつて先達の恩徳に報謝し、その願いに自らを照らすということには非常に重要な意味があるということなのでしょう。これが現代の本願寺の原初の姿といわれています。

ここで大切なことは、覚信が聖人の廟堂が自分や家族の私有物ではなく、あくまでも門弟達の共有の財産であり、共同で守っていくものであるということ、自身の「志んらん上人の（中（坂東―関東を指しています）の御てしたちの御なかへ」「まつだいまでも、御はかをまたくせんために」という、門弟達に宛てた手紙の中で明確に示したということ、そして、普段京都から離れた関東地方にいる門弟達の代理として廟堂を守り続けました。この代理の役割を「留守職（るすしき）」といいますが、覚信尼が親鸞聖人の教えをどれほど理解していたかについては不明な部分も多くありますが、彼女のこの業績を見る限り、いかなる階層の人々とも共に念仏道を歩まれた親鸞聖人の精神を継承し、見事に目に見える形で表されたと言えるでしょう。覚信尼は誰もが親鸞聖人に会うことができる場としての存続を願い、廟堂を建てられました。そして、これが本願寺の教団の始まりとなります。

やがて聖人の曾孫、覚如上人は廟所を「本願寺」（最初は「専修寺」と称した時期もありました）という寺院に変え、親鸞聖人から如信上人（聖人の孫）と続く「正統」な法統を受け継ぐ身として自らを捉えましました。こうした寺院化や留守職としての立場の変化には、覚信尼の廟堂建立の願いから離れた面も確かにありましたが、勝手な理解をもつて真宗の正統を名乗る弟子が数多くいた状況の中で法統を相続するためには、そうすることがやむを得ない面もあったのではないかと思います。そして、覚如上人以降数代に渡り、彼らは北陸、摂津、河内、山陽など各地方に足を運び、教線を伸ばしていかれました。そして、第八代留守職を継承した蓮如上人のご苦労により、それまで地道に築かれてきた教線が飛躍的に伸び、また同朋教団として新たな形で覚信尼の廟堂建立

お盆祭り

ニュース

今年もお盆祭りの季節がやってきました。今年七月二十八日と二十九日です！食事やデザート、各種市場やエンターテインメントなどのたくさんさんの屋台をご用意してお待ちしております。そして忘れてはならないメインイベントの盆踊りももちろんございます。そしてラッフル抽選会は今年も豪華な賞品をご用意しております。皆さま七月二十八日・二十九日はぜひ東本願寺ロサンゼルス別院にお越しいただき、ご一緒にお祭りを盛り上げましょう。

万灯会 提灯

万灯会提灯のご注文を開始しました。注文用紙が必要な方は、寺務所にごさいます。提灯の数に限りがございますので、なるべく

くお早めに寺務所までご連絡下さい。提灯一つにつき二十五ドルです。お盆祭りの後に提灯をお持ち帰りになられる場合は、あらかじめ寺務所にご連絡をお願い致します。ご連絡いただきました提灯につきましてはお盆祭り終了後から寺務所にて九月一日まで保管させていただきます。

お盆祭りギフト券

友人やご家族への贈り物としてギフト券はいかがでしょう。土曜・日曜のお盆祭りブースの食事を購入するのにとても便利です。寺務所にて一枚五ドルで販売中です。郵送をご希望の方は七月二十日（金）までにお支払いをお願い致します。

ラッフル抽選会

今年も様々な賞品を揃えて皆様をお待ちしております。ご家族やお友達と一緒にぜひご参加くだ

さい。上位賞品の当選者で抽選会にお越しでない方は後日お寺よりご連絡させていただきます。ラッフルチケットは一枚三ドル、五枚一組で十五ドルです。チケットはお盆祭り当日まで寺務所で販売しております。ご協力をお願い致します。

ルンビニ園からのお知らせ

ルンビニ園のメンバーは、お盆祭りのステージで、「ヒア・アンド・ナウ」のメンバーと一緒にパフォーマンスをしますので、是非見に来てください。その他にもベークセールやゲームブースなども出店します。それではお盆祭りでお会いしましょう。



お盆祭り

七月二十八日（土）
二十九日（日）

両日午後一時から九時まで



別院ニュース

八月の日曜礼拝

別院では他の月と同様に八月も毎週日曜日に日曜礼拝をお勤め致します。祥月法要は八月五日です。皆様のお参りをお待ちしております。なお、ダルマスクールは八月はお休みで、九月から再開されます。

誕生会 初参り

私たち浄土真宗の宗祖親鸞聖人は一一七三年春、京都にお生まれになりました。聖人の誕生を記念いたしまして、別院では五月十七日に親鸞聖人誕生会法要を厳修いたしました。この日は、兼ねて、初参りもお勤めいたしました。初参りは、赤ちゃんにとって、生まれて初めてのお参りです。今年も五家族のお参りがありました。おめでとうございます。

「覚信尼の願い」

(1ページからの続き)

の願いが実を結ぶこととなったのです。さらに戦国時代の教如上人の時代においても、僧俗一体の聞法道場としての精神が継承され、東本願寺が建立されるに至りました。長い歴史の中で、それぞれの時代の要請や制約の中、教団は形を変えつつも、覚信尼の願いは現代まで脈々と受け継がれ、今日まで生き続けているのです。

東本願寺の御影堂は世界最大級の木造建築物の一つと言われています。教如上人の時代、一六〇二年に現在地に建立されて以来、四度の火災により焼失しながらも、その度に全国のご門徒の努力により再建されてきました。現在の御影堂は一八九五年に再建されたものです。建築機械もない時代に、全国から集まったご門徒によって人力で建てられました。

が、百年以上も前に建てられたとは思えないほど高度で精密な設計思想をもつて造り上げられた建物です。木材やその他の建築材料は全国から寄付され、巨大な木材の運搬においては何人も命が事故で失われました。幾多の困難にもかかわらず、これほど見事な建築を可能にしたものは、まさしく全国のご門徒の、本願寺が時代を超えて誰かが親鸞聖人に遇うことのできる場であり続けてほしいという懇念でありましょう。その懇念の中にこそ、親鸞聖人の末娘、覚信尼の願いが生き続けています。

私達が常日頃法縁をいただいているお寺は、二十世紀初頭に移住してこられた一世の方々のご苦勞によつて建てられたものですが、そのご縁を訪ねるとさらに長い歴史の流れがあります。こうした法縁が現代にまで伝えられてきた歴史を振り返り、その歴史に通底する願いを尋ねていくことは大変大切なことである

と思います。またそのところこそ、私達を生きた「いのち」への目覚めをきっかけになると私は確信するのです。



行事予定

七月

- 一日 七月祥月法要
- 八日 日曜礼拝
- 十五日 お盆家族礼拝

ペット

- 二十二日 メモリアル礼拝
- 二十八日 日曜礼拝
- 二十八日 お盆祭り
- 二十九日 お盆初盆法要
- お盆祭り

八月

- 五日 八月祥月法要
- 十二日 日曜礼拝
- 十九日 日曜礼拝
- ビッグ
- バーゲン
- セール
- 二十六日 日曜礼拝

九月

- 二日 日曜礼拝なし
- 八日 報恩講の集い
- 九日 報恩講
- 大谷暢裕 開教司教
- 御参修
- 九月祥月礼拝
- 十六日



宗祖親鸞聖人 御命日法要

(毎月二十八日)

毎月二十八日午後一時より、宗祖親鸞聖人御命日法要をお勤めしております。どなた様もお気軽にお参り下さい(日時は変更される場合がございます。事前に寺務所までお問い合わせ下さい)。